



メロン、丸い形は地球に見える?メロンのようにおいしく、その表面の網目のように緻密なネットワークを広げる月刊活動情報誌をめざします!

告知	いよいよ「多民族フェスティバル2015」 …… 1	カレンダー	11月の comm cafe ランチカレンダー …… 7
取材	「おきなわ」を通してみえてくるもの(その2) …… 2	紹介	らいとぴあ夜間学校 …… 8
紹介	法人会員紹介「一燈合同会社」 …… 4	投稿	賛助会員リレーエッセイ「大切にしている気持」 …… 9
報告	ハット市との国際協力都市提携20周年を祝う! …… 6	お知らせ	協会、他団体からのお知らせ、編集後記 …… 10



あつ 集まろう! 多民族フェスティバル 2015@小野原公園

たの 楽しもう! とびらを開こう!

10:00 ~ 16:00

facebook <https://www.facebook.com/mafgataminzoku>

協会が小野原に移転して2度目の「多民族フェスティバル」が11月7日(土)に開催される。多文化なこの地域に暮らす人々が、出会い、お互いを知り、文化を越えてつながることを目的としたこのお祭り。「会場全体の一体感がほしい」という多民族フェスティバル実行委員会の昨年の反省をもとに、「まざりあう」をコンセプトに新企画も増えてレベルアップ。今回はその一部をご紹介します。

まず、ステージの新企画は来場者もステージも出店者も一緒に盛り上がる「みんなで踊ろうインドダンス」。ダンスを教えるのは本場インドで舞踊セラピーの学校を運営されているムカルジ・ヌブラさん。皆さんもまざって踊りませんか?

また、外国人市民の皆さんに「魅力的なイベント」と感じてもらうため、屋外でお抹茶が味わえる新エリア「ワールド野点コーナー」を設置。ここでは、箕面市立第四中学校の茶華道部や、地域の有志のみなさん、箕面市のALT(英語指導助手)たちが一緒に協力してブースを運営すること。「世界の屋台村」ではイスラム教の方も安心して食べられるハラルフード*の屋台も登場する。



今年も出演決定!
インドネシア留学生グループ
「サンダルフダヤ」の
アークレン演奏

今年もやります!
まーぶ
ハローワーク



そして今年はゴミの処理も一工夫。当日はゴミを捨てられる場所は2か所だけ。机を置いて、カップや箸などの分別を徹底する。楽しいお祭りの一方で、どれだけゴミを減らせるかを皆さんにも考えていただければと思う。

今回お伝えしたものの以外にも、内容は盛りだくさん。出店情報や最新情報は、多民族フェスティバルのFacebookページで見られる。

一緒にまざりあいながら盛り上がりましょう!(村田)

*イスラム教徒が食べてはいけないとされている、肉類やアルコールなどが入っていない食べ物のこと。

発行・差出人:公益財団法人箕面市国際交流協会(MAFGA)

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西5-2-36 箕面市立多文化交流センター内

Tel: 072-727-6912 Fax: 072-727-6920 E-mail: info@mafga.or.jp Webサイト: www.mafga.or.jp

賛助会員数: 326名 法人会員数26団体(2015年10月25日現在)

取材記



「おきなわ」を通してみえてくるもの

～大正区「関西沖縄文庫」を訪ねて(その2)～



沖縄をめぐる状況は日を追って複雑化し、緊迫したものになってきている。今年7月、多文化共生を実現するための糸口を探るため、大正区にある「関西沖縄文庫」を訪れたが、主宰者である金城馨さんから聞いたお話は、相当に深いレベルで私たちの心を揺さぶった。ひとりひとり、どう感じたかを共有すべく、「めろん」編集部で持った座談会の後半部分を報告する。

【マジョリティの持つ“無意識の差別”】

毎年9月に開催される「エイサー*祭り」は、全国各地のエイサー団体(沖縄から2団体参加)や子ども会なども参加する、大正区の大イベント。40年前の1975年に、「自分たちの誇りを取り戻す」ための手段として、沖縄出身の若者たち200名で始まったという。今では参加者2万人、そのうち沖縄ルーツではない観客が6割以上を占めるようだ。

岩城：このおまつりは、ただ踊りと音楽を通して沖縄の文化に触れるのではなく、沖縄の歴史や大正区とのつながりなどについても学ぶ機会があると聞き、ここにヒントがあると思った。金城さんいわく、「エイサー祭り」はあくまでも沖縄人としての“誇りを取り戻す”、“差別をはね返す”手段であって、それ自体が“目的”ではない。沖縄を表現するにあたって、楽しい要素も重要であるが、沖縄の現実(歴史)も知る機会となってほしい」。そんな思いのもと、米軍基地問題は沖縄問題ではないと気付いた人たちの中から、今では「沖縄の人たちだけに負担を押し付けてはいけぬ。自分たちの住む大阪に基地を引き取りたい」と行動をおこす地元の人たちが出てきたのは本当に意義深いこと。



今年の「エイサー祭り」は9月13日に開催。約2万人が参加した。

井嶋：でもそのことを自分の知り合いに話してみたら、「基地が大阪に来るなんて冗談じゃない!」と怒られた。結局、「私は(沖縄を)差別していません」と言いながら、自分たちはこのままがよい、という状況。

崔：「沖縄が好き」と言いつつ、嫌なものは見ない。苦しいものを押し付けて、それを当然だと思っている。自分にとってつらいもの、見たくなかったものを目の当たりにしても、それを持ち帰らないで帰っていく。歴史や現在の困難な状況には思いを馳せず、一方で沖縄のことを私たちが知るのには当然だと言わんばかりに、ぶしつけにいろいろと質問を繰り返す。何度も似たような質問を受ける当事者の、困惑する顔が目に見えよう。

渡辺：本土の人間は、基地問題を語るときには「同じ国

* エイサー：本土の盆踊りにあたる沖縄の伝統芸能のひとつで、主に各地域の青年会がそれぞれの型を持ち、旧盆の夜に捧げられる踊りのこと。

フェアトレード雑貨

espero

お買い物で国際協力

箕面市粟生外院6-2-1

Tel&Fax:072-728-1221

E-mail: info@espero-osaka.com

URL: http://espero-osaka.com/

バレーボールチームの練習を
体育館で見学できます!



サンバードズ

練習スケジュールは

オフィシャルページで発信中!!

サントリー箕面総合トレーニングセンター

TEL: 072-729-7324



胃腸科 内科 外科 肛門科 リハビリテーション科

おざわクリニック

診療時間	月	火	水	木	金	土
am9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
pm1:00~3:00(胃カメラ)	□	□	□	□	□	□
pm5:00~7:30	○	○	○	○	○	○

■胃カメラは予約制です。

■休診日：土曜日午後・木曜日・日曜日・祝日

■無料駐車場 有

■http://homepage2.nifty.com/ozawa-clinic/

【住所】〒562-0023

箕面市粟生間谷西3-7-9 シャトー野間 1F

阪急バス停留所「宮の前」 スーパーマルヤス向い

TEL: 072-730-0721

だから」といいながら、一方で沖縄を「文化の違う異国」と思っているのでは。しかもその文化は本土より劣っていると、無意識のうちに感じているような気がする。

岩城：昔聞いた話で、無意識の差別とは、「多数派が相手(=少数派)の足を踏んづけていることに気がつかず、相手に『仲良くしよう!』と握手を求める」行為だと。

「握手する前に踏んづけている足に気づきなよ!」と。自分も知らず知らずに誰かの足を踏んづけているかも。

神谷：当事者は、“沖縄らしさをなくしたくない”気持ちと、“日本人でもある”という、相反する気持ちの間で揺れ動いている。スパッと二分することはできない。

渡辺：時と場合にもよるけど、性急に白黒に分けるのはよくない。灰色である状況を認め、その時々で折り合いをつけられたら良いが…。灰色の幅はかなり広いから、実際は色々な摩擦があるのだろうけど。

【結局は日本社会の問題】

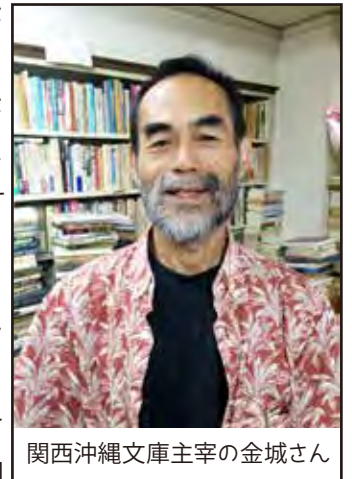
崔：外国人問題も沖縄も、“日本社会”の問題。多数派の意見こそ正しいと決めてやってきたことのひずみが最も大きくなっている。今こそ少数派の意見に耳を傾けるべき。

神谷：金城さんも私も、沖縄ではナイチャー（沖縄弁で内地＝本土出身の人の意）扱いされる。「どうせあなたにはわからない」と言われると、本土と沖縄の双方に引き裂かれる思い。基地問題についても、沖縄にいる親戚ともっと話し合いたいのには議論できない。

崔：結局、沖縄を通して見えてきたことは、国内・国外を問わず、「力あるもの」と「力のないもの」とのパワーバランスがいびつであるということ。両者は互いに歩み寄る必要があるのに、力のある方が一方的に決めたことを相手に押し付ける“暴力”がまかり通っている。機会があれば、金城さんから聞いたこれらの話を、協会職員全員が聞き、みんなで考えてほしい。マジョリティとマイノリティの力関係を考えることは、5年後、10年後の事業展開のイメージをつくったり、事業の幹を太くしたりするための良い肥やしになると思う。

井嶋：金城さんは「マジョリティとマイノリティの壁はあって当然」と言っておられた。壁がないと、自分と他者を隔てているものがなくなり、人との違いを維持することは困難だから。けれど壁をはっきりと自覚できた時、すきまが生まれる。すきまは立場が違う双方の共

有空間である。そこが異和共生の場となり、新たな表現(=文化)が生まれるとも。すきまは大きいほど、呼吸しやすくなる。



関西沖縄文庫主宰の金城さん

渡辺：金城さんは、「マジョリティがマイノリティの気持ちを理解することはできないが、知ろうとする努力が大切」だと言っていた。今回の取材は「理解」という言葉がキーワードだと思う。たとえ理解できなくとも、相手があるがまま受け入れようとするものの大切さ。そんな多数派の人たちが増えると社会も変わっていくのだろう。

【取材を終えて】

40年にも及ぶ「がじまるの会」の活動。生きづらさを抱えた当事者たちの、自己防衛としての「居場所づくり」の場であった。だが、それだけでは、結局はコミュニティごと孤立しがちで、被差別の構造は変わらない。同時に日本社会へ訴えかける「社会変革のための運動」も必要との理由で、関西沖縄文庫は開かれた。「『居場所づくり』と『社会変革』は、一緒にやると方向性が違うので分裂する。しかし、どちらか一つしかやっていないと、結局はつぶされそうになる」(金城さん)。

マイノリティとマジョリティ。立場は違っても、互いの「正しさ」とらわれず、「どこで間違ったのか」を振り返り、共有することの大切さ。金城さんらの息の長い活動に感服するとともに、さまざまなヒントをいただいた。今回うかがった話は、この記事を書くだけで終わらせられない。今後私たちひとりひとりがきちんと問題の重さと向き合い、自らの姿勢を問い、当事者から学び、知り、考える努力をし続けることしかないと感じた。(岩城)

秋の多文化ボランティアセミナーに 金城 馨さんが登場します！

●講演：「沖縄」を通してみえてくるもの

●日時：11月21日(土) 14:00~16:00

協会賛助会員は、参加費無料。一般は500円。
ぜひお越しください。

※詳細は同封のチラシを参照ください。

法人会員紹介(12) 一燈合同会社

相生キャッサバ紀行

昨秋、コムカフェでひそかなブームになった食べ物がある。キャッサバ(ポルトガル語ではマンジョカ)の生芋だ。「フレッシュなキャッサバが買える!」との情報は、口コミで神戸のブラジル人コミュニティからコムカフェへ伝えられ、シェフやブラジルルーツの人たちがこぞって注文。コムカフェのメニューで何度か登場すると、その味の虜になる人が続出した。生産者は、2014年に初めてキャッサバ栽培に成功した「一燈合同会社」(相生市)。協会の法人会員にもなっていていただき、今回編集部で取材した。

キャッサバは芋である。芋というのは分類学的名称ではない。植物が地下部分(根や地下茎)にデンプンを多量に貯えた場合に、その部分のことをいう。ジャガイモ(ナス科)やサツマイモ(ヒルガオ科)等、多くの芋は草の下の部分だが、キャッサバは木の下に出来る。熱帯作物で、トウダイグサ科イモノキ属に含まれる。なお木と草も分類学的名称ではなく、ひとつの科の中にどちらも含まれることがよくある。

原産地は南米だが、現在は東南アジアやアフリカでも栽培されていて、4500程の品種がある。そしてそのいずれの芋にも毒がある。野生種はわかっていない。他の食用芋も野生種時代には毒があり、品種改良により現在のようになったと考えられる。キャッサバがそうならなかった理由は、害獣対策であったかもしれないと思う。葉や茎にも毒がある故、草食性獣は忌避するのではないかと。

その毒はリナマリンという有機物で、それ自身は毒ではない。ただ食べると腸内細菌のはたらきで分解され、猛毒のシアン化水素が発生する。含有量が少ない故、芋一本食べたぐらいで死にはしない。けれども食べる際には必ず調理し、無毒化する。採れたての芋の表皮を剥き、茹でるのがいい。それを揚げることもある。私は昨秋に揚げたてを賞味したが、ジャガイモより甘味があり、その一方であっさりもしていて、飽きない味だと思った。やはり皮を剥いたものをすり潰し、水に晒してアク抜きし、乾燥



役員の方々。左から森尾さん、石王丸さん(代表)、佐保田さん

させた粉がタピオカである。

在日ブラジル人は「故郷の味」として珍重するが、なかなか手に入らない。加工済の冷凍品は僅かに輸入されているが、質が良くない上に高価とのこと。すぐ加工しなければならない生芋は日本に来ていなかった。

私が昨秋に協会で食べた揚芋は、国産である。兵庫県南西部に位置する相生市の農場で生産されたものだ。と、いうことを聞き、私は「はて?、熱帯作物の筈だが」と思った。イネも元々は熱帯産だが、それが北海道でも育つに至るまでには長い品種改良の歴史がある。開業まもないその農場は、どのようにして栽培に成功したのか?

その他にも、疑問のことが未だ少なくない。いっぺんその農場を見学して、話を聞きたい。その願いが叶ったのは2015年の8月22日である。皆と一緒に車で箕面を発ったのは、朝の9時半だ。12時少し前に相生に着くと、農場を経営する一燈合同会社の人達と、彼らを支援する兵庫県の担当職員が迎えてくれた。

まず室内で話を聞かせて頂いた。初めに発せられた質問は、「何故この地でキャッサバを栽培することになったのか?」である。解答は「まずキャッサバありきではなかった」であった。

相生に限らぬが、いまこの国の農村部は過疎と高齢化が進み、若い人口は減り、休耕地が増加する一方である。相生市の自治体には「若者に住んで貰いたい」



キャッサバの木。ブラジルでは「マンジョカ」という。



収穫されたカッサバ芋。
放射状に生育する。

「新規就農者を呼び込みたい」の思いがあった。それに応えるように若い世代の何人かが集まり、地元で「ゆるキャラ」を作ってい

イベントをするなど、「まちおこし」の動きが始まっていた。また産業が衰退する状況下で、障害者の就労機会が減っている。「まちおこし」と「ブランド野菜の栽培」、そして「障害者」の就労支援。それらは一本化してやれるのでは、ということで、2014年に合同会社を立ち上げた。地元の自治会の尽力で休耕地を確保し、障害者と協力して、縁あって手に入れたカッサバの栽培を始めたのである。

シアン化水素が生ずる恐れがあるが、それは調理(皮を剥いてすぐ茹でること)によって完璧に除去しうる。だが素人が毒素を抜かないで食べると、「風評被害」が生ずるリスクがある。流通や加工には細心の注意が必要だ。調理済の冷凍品は輸入物と競合するが、味には自信がある。あくまでも、「あいおいも(=相生産のカッサバ)」と

いうブランドで勝負したいとのことだった。

農場は瀬戸内海に近いゆえ比較的温暖である。カッサバは湿潤を嫌うが、この地は比較的雨が少ない。谷間ゆえ強風を受けることも少ない。ただ冬は寒い。念のため越冬実験をしたのだが、冬にはみな枯れた。で、ブラジルでは1~3年で生育させるところを、苗木の植え付け(挿木)と収穫まで約6ヶ月間で行うことにした。つまり相生では成長が早いのである。でなければ冬の到来に間に合わない。なぜ成長を早められたかの解説は、ここではしない。農場経営者の知恵の所産であるとのみ記す。

話を一通り聞いた後に、外に出た。面積1haにも満たない農地は、鹿による食害防止用の柵で囲まれている。この地には猪もいるが、現時点ではカッサバに関心を示していないという。鹿は新芽を食べる。だが成長した葉には殆んど目もくれない。それでも新芽を食われるのは痛手である。故に柵を設置したのだが、それで鹿の害は十分に防げるという。柵に電気を流す必要は無いようだ。

今年は植え付けがやや遅かったため、未だ木の丈は低い。でも成長は順調で、秋には例年通りの収穫が見込めるという。その日の「芋掘祭」には、是非参加させて欲しいと思った。(渡辺)



秋から定番メニューに! @comm cafe

去年のコムカフェのカッサバ料理は不定期で何度か出されたが、この秋には定番化する予定である。生芋を即調理したものは、収穫時期のみ食べられるのだが、今年は大量に仕入れて、長く提供出来るようにしたいとのこと。

コムカフェにはカッサバの調理法に熟達したスタッフが複数いる。下処理は完璧で、その味を引き出すことにも長けている。ただしストックが切れたら、今年はそれで終わりだ。皆様、賞味するなら早い者勝ちですよ!



**Homestay
in JAPAN!!**

ホストファミリー大募集!

**Homestay
in JAPAN!!**

大阪大学・関西大学の短期研修プログラムで来日する留学生のホストファミリーを募集しています。ご興味のある方には資料を郵送し、ご説明させていただきます。お気軽に下記までお問い合わせください。

【ホームステイ受け入れ条件】

受け入れ期間：1泊~2ヵ月

部屋：個室1部屋をご提供ください。季節に応じて冷暖房もご準備ください。

食事：基本的に2食(朝食・夕食)をご提供ください。

謝礼金：1泊あたり1,500円~2,500円(1ヶ月あたり45,000円~75,000円)

※受け入れ案件や食事プランにより異なります。

★お問合わせ★ ネクステージ ホームステイインジャパン大阪支店

お電話：06-6303-0112 (受付:平日 10:00~19:00) メール: osaka@homestay-in-japan.com



ネクステージ ホームステイインジャパン 